

重点取組分野	横浜市立今宿小学校 令和 2 年度	学校評価報告書	総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知(知)	①主体的に学ぶ姿勢を育てるために授業研究会や少人数指導を実施する。 ②朝学習・読書、家庭学習(課題と自主学習)を活用し主体的に学ぶ姿勢と基礎学力の定着を図る。 ③教科領域の研修等を実施する。	児童アンケートでは、主体的に学ぶ姿勢が増えたと捉えられる。授業研究会や教科領域の研修を活かして授業改善に取り組んだ成果だと考えられる。また、朝学習や朝読書、家庭学習の取組も影響していると考えられる。貸出図書数の増加については授業で図書館を利用するクラスが増えたことや図書委員会や学校司書など教員だけでなく児童や職員が一丸となって取り組んだ成果だと考えられる。	B
豊かな心(徳)	①「道徳の時間」のカリキュラム改善と社会的スキルプログラム(学年3つ)の実践に取り組む。 ②ふれあい活動、あいさつ運動を継続し、いろいろな人と絆を深める活動を実施する。 ③人権研修を行うとともに人権教育に根差した授業を行う。また様々な立場を理解する授業を行う。	児童アンケートでは、6つの質問のうち5つが目標値・前年度を上回った。学校再開時にスタートプログラムに取り組んだことや年間を通して道徳や横浜プログラムに取り組み、仲間と安心して話し合うことができた成果だと考えられる。今年度新たに人権学習プログラムを取り入れ、様々な立場を理解することにも取り組んだ。	B
健やかな体(体)	①体力の状況を把握し自らの運動習慣を改善しようとする態度を育て、運動時間の増加に取り組む。 ②健康状態を把握し自らの健康・安全を図ろうとする態度を育て、よい生活習慣の定着に取り組む。 ③栄養職員や食育係とともに、非喫食率の改善や栄養・バランス等の授業実践に取り組む。	昨年度より30分以上運動する児童が増えた。睡眠時間が減りSNSをしている時間が増えた。しかし、学校保健委員会の取組である手洗いには職員も児童も90%以上が取り組んだと答えており、新型コロナウイルス感染症に関する健康指導を継続してきた結果と言える。今後も自らの運動習慣・生活習慣を見直し改善しようとする児童を育てていきたい。	B
キャリア教育(公)	①効果的な自分づくりパスポートを作成し、自らできることを考え行動する力を育てる。 ②地域と連携した学習を通して、地域貢献・社会参画する力を育てる授業を行う。 ③SDGsを意識して学習をまとめ、夢をもち人の役に立とうとする授業を行う。	今年度は地域貢献や社会参画について積極的に学習することができなかったが、児童アンケートの結果からは、様々な活動を通して自分でできること、役に立とうとすることを考えることができたことと捉えられる。コロナ禍でも学習できることを考え、前向きに取り組んだ成果が表れたと考えられる。SDG'sを意識して学習する児童を育てていきたい。	B
国際教育(開)	①外国語活動、外国語授業の授業改善に取り組むとともに、職員研修を実施する。 ②SDGsを意識して学習をまとめ、暮らしをよりよくしようと、世界に目を向けようとする授業を行う。 ③プログラミング教育、オリンピック・パラリンピック教育の授業実践に取り組む。	コロナ禍の影響で計画していた外国語研修をできなかったが、自主的に授業研究会を行ったり教材研究に取り組んだ成果だと考えられる。生活科・総合の時間で学ぶことが好きだと答えた児童が90%以上となり、課題を発見しそれを解決する主体的に学ぶ楽しさを感じてきていると考えられる。	B
児童理解・指導	①「今宿スタンダード」をもとに、朝会等も活用して統一した指導をし、問題行動の未然防止に努める。 ②診断やYPアセスメント等を活用して指導計画を作成し、児童の実態に応じた指導を行う。 ③関係機関や家庭と連携して支援計画を作成し、児童を中心に据えた特別支援教育を行う。	児童アンケートではほとんどの児童が決まりを守り、安心して学校生活を送っていると答えた。これは「今宿スタンダード」をもとに学校全体で取り組んでいることから、教員も児童も同じ理解できていることが影響していると考えられる。また、YPアセスメントや特別支援教育研修などを活用して児童の実態に応じた指導を行っていることも影響していると考えられる。	B
安全管理	①避難訓練を実施し、いざという時に素早く避難できるように指導する。 ②児童の安全を守るよう職員研修を実施する。 ③施設点検、安全点検を実施し、不備な点があった時には迅速な対応に努める。	火災、地震、不審者対応などの災害を想定した避難訓練を計画し、職員、児童が真剣に取り組んだ。シャッター研修など安全にかかわる研修を実施し、事故が起きないように取り組んだ。毎月安全点検を実施するとともに、年1回の施設点検に取り組み、不備な点があった時には迅速に対応した。	A
信頼される学校づくり	①学校広報、学校評価を充実させる。 ②PTAや地域と協力し登下校の安全を図る。また、関係機関と連携してスマホの危険を啓発する。 ③不祥事防止研修を実施し、市民から信頼される学校づくりに努める。	学校Webページを通して学校の取組を発信し、休校中の5月には1万を超えるアクセスがあった。また、課題や動画を作成し配付・発信したり、PTAと連携して学習資料を配付した。PTA校外委員や地域と連携して登下校の見守りを行い、警察と連携して5、6年保護者に向けてスマホの危険について啓発した。	B
いじめへの対応	①定期的なアンケートや保護者面談等で児童の状況を把握し、早期発見に努める。 ②いじめ防止対策委員会を定期的に開き、いじめに組織的に対応し心に寄り添った解決に努める。 ③児童支援専任・副専任を中心に、常に情報共有を図り、早期発見、早期対応に努める。	昨年度の途中から「児童の悲しい思いををする時間を長引かせない」という方針の下、毎週いじめ認知会議を開き積極的に認知し、児童にはくり返し指導し、職員は児童支援専任を中心に組織的に対応してきた成果が表れていると考えられる。アンケート結果として100%の児童が「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と答えるように取り組んでいきたい。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①キャリアステージに応じた目標を設定する。 ②校務のICT化、マニュアル化、情報共有化を促進し、働き方改革を推進する。 ③運営委員会、校内教科領域推進係を効果的、効率的に運営し校務の充実とスリム化を図る。 ④学年会、メンター研でOJTに取り組む。	職員との面談を確実に実施し、キャリアステージに応じた目標を設定した。校務のICT化については共有システムを活用して印刷枚数が格段に減った。しかし、勤務時間が基準時間を超える職員がおり健康面が心配な状況は今後改善していく必要がある。会議時間は大幅に縮小され、効果的、効率的に運営されている。教科領域推進係やメンター研は十分機能した。	B
ブロック内評価後の気付き	児童、保護者、教職員からアンケートを取り、それを学校経営の見直しに活用していることがこの評価のよさである。力を入れていることに成果が数値となって表れ、評価する側の喜びや反省に繋がる。 過去3年間の取組や横浜市の平均と比較できることで、データの客観性・信憑性が高まる。また、指標はできるだけ横浜市が掲げている数値を適用することで、市の施策と方向性を一致させることができるのも、この評価の良いところである。今後はブロック内でも学校評価から課題を見つけて取り組むなどの活用をしていければと思う。		
学校関係者評価	児童アンケート結果を見ると、コロナ禍にも関わらず、昨年度より目標値を上回った項目が多く、素晴らしい成果を上げていると思う。特に、重点取組分野1(知)、4(公)、6(児童理解・指導)、9(いじめ対応)については児童が自ら学び、友達と関わりながら考えを深めたり広げたりする姿、一生懸命取り組み、前向きに頑張ろうとする姿、そして何より安心して過ごす姿がうかがえる。これは学校が児童の心の安定に注意を払いながらも、できることに取り組み、前進し続けた成果だと思う。保護者アンケートからも、学校の取組に感謝していることがうかがえた。教職員アンケートで評価が低かった項目については、組織改善、取組事業・評価項目の見直しが必要だろう。		
中期取組目標振り返り	3年計画の2年が終わり、成果が上がってきている。学校評価結果を考察して組織改革や取組事業を考え、実行することで、この成果が得られていると思ってい。来年度はこの中期学校経営方針のまとめの時期となるので、これまでの反省を踏まえるとともに、さらに未来に向かって前進していけるような組織、事業を考えていきたい。		